

「ハノイ国家大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学文学部・地理学研究科3年 清水沙紀

① 学習成果

ベトナムで2週間、現地での文化体験やベトナム人学生との交流をし、日本文化や日本語をベトナム人学生に教える今回のプログラムを通して、ベトナムの文化や言語に対する理解と日本の文化に対する理解の2つの学びを得ることができた。さらにベトナムと日本の両国の関係に関しても考えを深められたと感じる。2週間という短期ではあったが、海外に滞在するという経験は大きな刺激となったので、今後他の留学やプログラムにも目を向け、機会があれば参加してみたいと考えるようになった。

② 海外での経験

現地学生との交流では、日本語を学ぶベトナム人学生の熱意・熱心さに感銘を受けた。学習した日本語でスピーチしたり、日本人である私達に積極的に話しかけたり、日本について興味津々に質問したりする姿が大変印象的であった。ベトナムの日本に対する友好精神を肌で感じたと思う。一方、自分の周りの日本人を考えると、この親日的な国ベトナムに対する知識も関心も薄いのではないかと気になった。今回私達が交流した学生が日本語学科の学生であること、日本は経済的・技術的にベトナムに教える立場であることが多いことなどを差し引いても、日越国交40周年といいながら、このように一方向的な関係で良いのか疑問に感じた。

今回ベトナムで過ごして、日本人もベトナムについて関心を持ち、知識を深め、ベトナムから学びを得ることが、今後さらに良い関係を築くために必要なのではないかと考えるようになった。私自身、今後もこの国に対して関心を持ち、積極的に理解を深め、周囲の日本人に発信できるような存在になりたいと思う。当初、このプログラムでの目標を「ベトナムの学生に日本に来たい、と思ってもらうこと」と定めていたが、プログラムが終わった今、「日本人にベトナムに対して関心を持ってもらうこと」を自身の課題としたいと考えている。

現地での生活における健康管理について申し送りたいと思う。今回、湿度の高い気候や慣れない食べ物、普段と異なる生活環境のために体調を崩す人が続出した。異国に来て常に万全の状態でいれることの方が少ないので、不調をきたした時は無理をせずに周りに伝え、休むことが肝心である。また、いつトラブルが起こり保険会社に連絡する必要があるか分からないため、保険のパンフレット等は常に携帯しておく必要がある。

③ プログラム内容

出国前の事前準備としてプレゼンテーションの内容を踏まえたフィールドワークに行けたのは良かった。プレゼンテーションの内容は一人一人違うが、実際に関連した場所に行っただけで、他のテーマについての理解も深まった。例えば、事前に茶道体験をしたことから、発表時のベトナムの学生からの質問に、別の人が助け舟を出すことができた。

ベトナム語・文化講座について。平日の朝はほぼ毎日ベトナム語・ベトナム文化についての講義を受けた。2週間での言語学習には限りがあるため、文法や語彙だけでなく言語の文化的側面を多めに教えていただけたことは有意義であった。相手との関係によって呼び方を変える風習の奥深さや、6つ声調の発音の複雑さが印象に残った。また、実際に生活の中で使える実用的なフレーズも学ぶことができた。

ベトナム人学生との交流会について。人文社会科学大学、外国語大学の2つの大学の学生と合同で交流会を行い、日本文化についてプレゼンテーションをした。人文社会科学大学との交流会は、日本人学生とベトナム人学生が交互にそれぞれの文化についてプレゼンし、質疑応答をするという形であった。4年生を中心とした社会大学の学生は、日本語ですらすらと進行・プレゼンをし、鋭い質問をしたり、こちらからの質問にしっかりと応えたりしてくれたので、かなり内容の深い勉強会になったと思われる。外国語大学の方では、午前1、2年生に対してプレゼン、午後3年生を中心とした学生の発表と合同ディスカッションという形式であった。1、2年生は日本語学習歴が浅く、通訳がなければプレゼンの内容が伝わっていない面もあったが、懸命に質問をしてくれた。ディスカッションはシナリオなしに進めるのが難しかったが、様々な話を引き出すことができ、興味深かった。

④ 進路への影響

卒業論文のテーマをベトナムにすることを検討している。将来はグローバルな環境で働くことを志望しているため、このベトナムでの経験を活かしていきたいと考えている。